

■三郷交流学習センター起工

三郷交流学習センターの起工式を1月17日、旧三郷支所跡地で行いました。当日は、市や市議会などの関係者70人が出席しました。

宮澤市長は「市民が交流し、活気に満ちた三郷地域の教育文化の中核的な拠点となるよう期待したい」とあいさつしました。

三郷交流学習センターについては、旧三郷村時代の図書館整備構想を経て、合併後は、図書館を核とした複合施設として検討が進められてきました。

施設は鉄骨平屋建て、述べ床面積約1846平方メートルで、三郷図書館のほか市民交流や展示スペースにも利用できる

交流ラウンジや学習、各種講座などに利用できる学習室を備えています。工事費は9億2100万円、主な財源として合併特例債を活用します。

建物は本年12月に完成予定で、仮開館中の三郷図書館の移転作業後、平成30年4月までの利用開始を目指します。



三郷交流学習センター完成予想図

■安曇野の地下水の仕組みを可視化

市が策定を進める「水環境基本計画」の実効性、実現性を高めるため、「安曇野市水循環の可視化および資金調達等に係る研究成果報告会」を1月16日、市役所で開催しました。

この報告会は、科学データをもとに地下資源を可視化し、現状と将来について解析を行うことで、地下資源の効果的な活用を検討することを目的に開催したものです。



信州大学工学部による研究業務の発表

当日は、市や地下水に係る団体関係者など約100人が参加。信州大学工学部の中屋真司教授が安曇野わさび田湧水群から湧き出ている水は、約10年の年月をかけて流動してきたことなど地下水の仕組みを説明したほか、大阪府立大学大学院の遠藤崇浩教授は、地下水保全に必要な資金調達・管理方法の先進事例を紹介しました。参加者は、地下水を有効に増やすための

の取り組み事例や、管理資金の調達方法などの説明に熱心に耳を傾けました。

宮澤市長は「暮らしに欠かすことのできない地下水の構造や実態を把握し、効果的な施策立案につなげたい」とあいさつしました。

市では、今回の研究報告をもとに、持続可能な水環境の確保と地下資源の保全を目指して、水環境基本計画の策定を進めます。

■地域の課題解決へ 83区の取り組み共有

市と協働のパートナーである市区長会では「地域を考える研究会集會」を1月21日、市役所で開催しました。

この催しは、地域コミュニティとしてこの区役を割り考え、区が抱える課題を市民自ら解決し、地域力を向上するため開催したものです。市区長会熊井深男会長は、あいさつで「地域力向上へ、情報を共有して欲しい」と

と参加者に呼び掛けました。当日は、83区の役員など約250人が参加。市の地域力向上事業交付金の活用事例や、区内の諸団体が横断的に連携する「部」制度の導入などについて発表が行われました。その後、4つのテーマでワークショップも行われ、各区の抱える課題への問題提起や解決に向けて意見交換が行われました。



地域力向上事業交付金の活用事例発表

■県内市町村で初 県柔道整復師会と災害時協力協定締結

市と（公社）長野県柔道整復師会（内山富之会長）は、県内市町村との協定では初めてとなる災害時における協力協定を1月20日、市役所で結びました。

この協定は、災害発生時などの際、市の要請に基づき、同会所属の柔道整復師が、柔道整復師法に定める範囲で骨折や捻挫などの負傷者の応急手当をするものです。医療救護所や避難所



協定締結後、握手をする宮澤市長と県柔道整復師会内山会長（右）

で、応急手当に迅速に対応でき、医療救護体制の充実を図ることができま。

締結を終え、内山会長は「持てる力を発揮し、救護にあたりたい」と述べ、宮澤市長は「連携を深め、市民の安全安心を守っていききたい」とあいさつしました。

表敬訪問 社会を明るくする運動 長野県作文コンテスト 入賞者

思いやりの心や感謝の気持ちなどを作文にする、第66回“社会を明るくする運動”長野県作文コンテストで入賞した皆さんが1月26日、宮澤市長に受賞を報告しました。本年は、県内の小中学生から1万2875点の応募があり、最優秀賞6点、優秀賞13点などが選ばれました。

受賞した皆さん

中学生の部・優秀賞

鹿川峻輔さん（穂高東中1年）、東條晃季さん（三郷中3年）

小学生の部・優秀賞

横山笑心さん、阿部由凜さん（豊科南小6年）



受賞者の皆さん